



**2025**

**ENVIRONMENTAL REPORT**

**環境報告書**



**ダイニツ** 株式  
会社

# 目 次

ごあいさつ P.1

会社概要 P.2

環境基本方針 P.3

環境課題への取組み P.4

環境目標・実績 P.5

2024年度環境負荷低減と自然回復に向けた取組み P.6～P.13

気候変動対応・省エネルギーの取組み

省資源・廃棄物削減の取組み

- 水資源の有効活用
- 廃棄物削減の取組み
- 廃プラスチック削減の取組み

化学物質排出削減の取組み

化学物質と情報伝達の取組み

自然との関わりと回復の取組み

生物多様性重要地域と関連拠点の距離

マテリアルフロー P.14

環境関連商品 P.15

拠点マップ P.16

サステナビリティへの取組み報告 P.17

2024年度拠点ごとの活動状況 P.18～P.27

2024年度国内グループ会社の活動状況 P.28～P.29

2024年度海外グループ会社の活動状況 P.30～P.32

2024年度天究館の活動状況 P.33

## ダイニックは、製品の開発から廃棄まで 常に環境保全を考えた企業活動を推進しています。

暮らしを「豊かに」そして「快適に」彩ることがダイニックのテーマです。

ダイニックグループは、住みよい地球に向かうための環境基本方針を常に心掛け、生物多様性と気候変動に伴うリスク対応を重要課題として認識し、技術と環境との調和を踏まえた、環境にやさしい企業活動に日々努めております。

国内にある5つの工場では、すでに省エネルギー設備導入や再生可能エネルギーの利用推進などカーボン・ニュートラルに向けた活動を行ってきました。これからもこの活動を強化し継続していくとともに、生物多様性に配慮した商品設計や保全活動を推進してまいります。

1987年に開館した天究館では、多賀町と協力し天体観望会やプラネタリウム上映を通して環境啓発活動を継続しています。

国内外のグループ会社におきましても、省エネルギー設備の導入や生物多様性保全の取組みなどを継続して推進しております。

2022年より気候変動分野のCDP回答を行い、気候変動緩和と適応の課題解決に取り組んでいます。2024年度は、森林や水資源分野のCDP回答も行いました。気候変動と森林や水資源の課題に統合的に取り組み、素材メーカーである当社の強みを生かした活動を加速してまいります。

今後も信頼される企業であり続けるために、次世代に向けて、全従業員が一丸となって環境対策への取組みを強化し、地球環境と生活環境に配慮した環境関連商品の開発に取り組み、地球環境保全の実現に貢献する企業活動を推進してまいります。



令和7年8月

ダイニック株式会社  
代表取締役社長

小田英伸

## 会社概要

|      |                                                                                                                                                                                     |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 商号   | ダイニック株式会社<br>DYNIC CORPORATION                                                                                                                                                      |
| 創立   | 1919年8月18日                                                                                                                                                                          |
| 資本金  | 57億9,565万円                                                                                                                                                                          |
| 株式   | 東京証券取引所スタンダード市場                                                                                                                                                                     |
| 売上高  | 311億円（グループ含み441億円）<br>（2025年3月31日現在）                                                                                                                                                |
| 従業員  | 606名（グループ含み1,089名）<br>（2025年3月31日現在）                                                                                                                                                |
| 本社   | 東京本社：〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 新御成門ビル<br>電話 03-5402-1811（代） FAX 03-5402-3146                                                                                                         |
|      | 京都本社事務所：〒615-0812 京都市右京区西京極大門町26 番地                                                                                                                                                 |
| 営業所  | 札幌、東京、名古屋、大阪、福岡、香港、シンガポール、米国、英国、中国、インドネシア、チェコ（グループ含む）                                                                                                                               |
| 工場   | 滋賀、埼玉、王子、富士、真岡、米国、英国、中国、インドネシア、チェコ（グループ含む）                                                                                                                                          |
| 関連会社 | 国内7社、海外10社                                                                                                                                                                          |
| 事業内容 | 書籍装幀用クロス、文具紙工品用クロス、各種ファンシー商品、プリンターリボン、フィルムコーティング製品、表示ラベル用素材、名刺プリントシステム、有機EL用水分除去シート、自動車内装材、各種フィルター、不織布、接着芯地、壁紙、カーペット、ターポリン、食品容器密封用アルミ箔・フィルム、パップ剤用フィルム加工、磁気関連製品などの製造・加工および販売（グループ含む） |

# 環境基本方針

地球温暖化をはじめとする地球規模の環境問題が深刻化するなか、カーボン・ニュートラルや循環型社会の構築に取り組むことが求められています。ダイニック株式会社は「環境基本方針」を以下のとおり定め、環境対応に取り組んでおります。

## 【環境基本方針】

ダイニックグループは、環境保全への取組みを重要な経営課題と認識し、国内外の環境関連法規制を遵守するとともに、環境負荷のより少ない製品を市場に提供していくことがメーカーとしての責任と考えている。その考えを具体的に実行するため、開発、資材調達、製造、販売、流通、および廃棄のそれぞれの段階で、以下の項目を徹底推進する。

- (1) 製品のライフサイクルを通じ、事業活動のすべての段階で環境負荷低減と、生物多様性保全等への配慮に努める。
- (2) 省エネルギー、廃棄物削減に積極的に取り組み、環境汚染の防止に努める。
- (3) 有害な化学物質により環境を損なうリスクを低減する。
- (4) 環境に関する事業活動についての情報を開示し、地域社会等と協調しながら、環境保全活動を積極的に推進する。
- (5) 環境保全に対する教育を徹底し、環境への意識向上を図る。

ダイニック株式会社

常務取締役 佐々木 範明

## 環境負荷低減の取組み

製品の設計段階から、環境負荷の少ない素材、再利用しやすい素材を考慮することはもちろん、エネルギー負荷の少ない製造方法や、省資源、長寿命化を考慮した製品設計を行なっています。製造段階では、日々の製造現場において、省エネルギー、廃棄物削減に努め、環境負荷低減に取り組んでいます。販売段階では、当社製品をご利用いただくことで、お客様の環境負荷が低減できる環境関連製品を提案し、地球環境保全に貢献する取組みを行なっています。

## 地球温暖化対策・生物多様性保全の取組み

ダイニック全体で省エネルギー活動に取り組み、二酸化炭素の排出を削減することにより、地球温暖化対策を推進しています。また、生物多様性保全についても、地球温暖化対策等のリスクへの対応により、地球環境との共生を目指して取り組んでいます。

# 環境課題への取組み

ダイニック株式会社は、持続可能な社会実現における環境課題を次のように考えています。



| 環境課題                                        | 一般的な事例                                                                                                                                                           | 当事業と各種指数との<br>かわり／取組等                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A. 環境破壊<br>(開発など人間活動による<br>直接的な危機)          | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎鉱物採掘に伴う開発</li> <li>◎自然資源採取による森林等の伐採</li> <li>◎農産物系原材料栽培地確保のための森林や湿地の開発</li> <li>◎廃棄物最終処分場確保のための開発</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎鉱物系資源リサイクル推進</li> <li>◎最終処分量削減 (P8)</li> <li>◎遊休地利用時の環境影響事前評価</li> <li>◎水資源の適切な管理</li> <li>◎自然資本依存原材料の特定と対応策検討</li> <li>◎自然資本への影響評価など</li> </ul> |
| B. 社会構造変化<br>(人間の自然に対する働き<br>かけ縮小による危機)     | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎高齢化や産業構造変化による山林・田畑の放置社会の<br/>無関心化</li> </ul>                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎非可食農産物の原材料利用</li> <li>◎バイオマス素材の適切な利用など</li> </ul>                                                                                                |
| C. 環境汚染・外来種問題<br>(人間活動により持ち込まれ<br>たものによる危機) | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎廃棄物による汚染</li> <li>◎製品中や製造工程からの化学物質汚染</li> <li>◎揮発性有機化合物や燃焼粉塵による大気汚染</li> <li>◎河川、地下水、海水などの水質汚染</li> <li>◎土壤汚染</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎廃棄物削減 (P8)</li> <li>◎排水・排気ガスの適正管理 (P7)</li> <li>◎PRTR 対象物質使用削減 (P10)</li> <li>◎資源循環</li> <li>◎製品含有化学物質管理など</li> </ul>                            |
| D. 地球環境の変化による危機                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎気候変動</li> <li>◎干ばつ</li> <li>◎水害・地滑り</li> </ul>                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎省エネルギー (P6)</li> <li>◎再生可能エネルギー導入など</li> </ul>                                                                                                   |

2024年度はA. からD. の4課題の関連性を意識しつつ「気候変動」「水」「森林」に関連した当社の活動を分析・評価しました。その内容をCDP(気候変動に対する企業の取組み等を分析・評価する非政府組織)回答に反映・登録しました。その結果、「A」～「D-」までの8段階において、気候変動と水は「B-」、森林は「C」と評価されました。評価結果を分析し、活動内容の充実と評価改善を目指します。

# 環境目標・実績

ダイニックでは環境中期目標（2023 年度～ 2025 年度）を設定し、推進しています。  
2024 年度取組み実績は、以下の通りです。

## 2024 年度の環境目標・実績一覧

| 取組項目      |                  | 単位          | 2024年度         |        |      |       | 2025年度         |
|-----------|------------------|-------------|----------------|--------|------|-------|----------------|
|           |                  |             | 目標             | 実績     | 自己評価 | 関連ページ |                |
| 地球温暖化防止   | CO2 排出量削減        | t-CO2       | 2013年度比 17%削減  | -15.3% | △    | P 6   | 2013年度比 20%削減  |
|           | エネルギー 原単位の改善     | 原油換算 kℓ /km | 2017年度比 7%改善   | +7.0%  | ×    | P 6   | 2017年度比 8%改善   |
| 省資源と 資源循環 | 水の使用量 削減         | 千t          | 2017年度比 17%削減  | +2.9%  | ×    | P 7   | 2017年度比 18%削減  |
|           | 廃棄物量 の削減         | t           | 2017年度比 21%削減  | -7.0%  | △    | P 8   | 2017年度比 22%削減  |
|           | 産業廃棄物 最終処分量 の削減  | t           | 2017年度比 9%削減   | -20.0% | ◎    | P 8   | 2017年度比 10%削減  |
| 環境汚染防止    | PRTR対象化学 物質排出量削減 | t           | 2016年度比 17%削減  | +9.6%  | ×    | P 10  | 2016年度比 18%削減  |
| 環境関連商品    | 対売上比率 の向上        | %           | 2020年度比 2.0%向上 | +3.6%  | ○    | P 15  | 2020年度比 2.5%向上 |

<自己評価凡例>

- ◎：目標の 2 倍以上達成
  - ：目標を達成
  - △：目標は達成できなかったが、昨年よりは改善された
  - ×
- ×：目標に向けた改善ができなかった

# 2024 年度 環境負荷低減と自然回復に向けた取組み

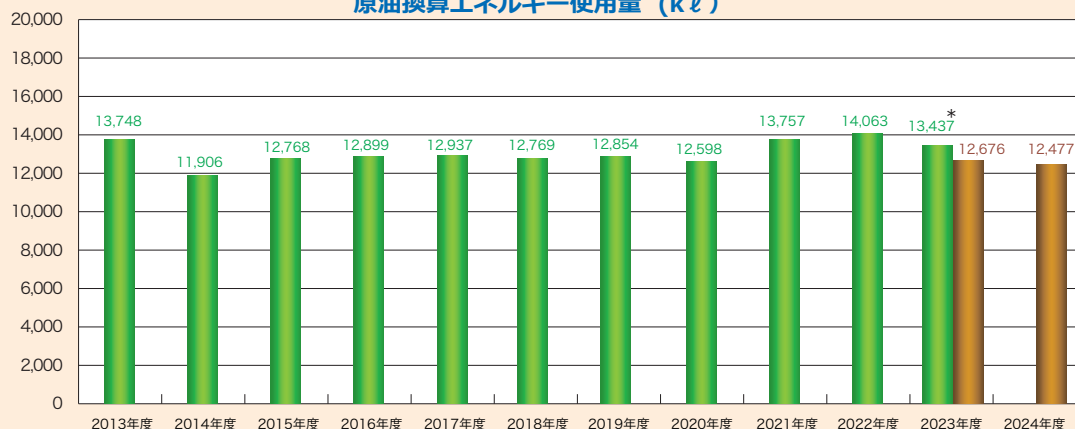
## 気候変動対応・省エネルギーの取組み

生産活動における省エネルギー・CO<sub>2</sub> 排出削減を目的とした活動に取り組んでいます。主な内容として、工場天井照明の LED 化・高効率型空調機・コンプレッサのインバータ化・自家消費型太陽光発電設備の増設といった設備の更新や新規導入により、エネルギー効率の向上を目指しています。

2024 年度は生産数量が前年度より 2.1%減少したのに対し、エネルギー使用量は 1.6%の減少にとどまりました。このため、エネルギー原単位は前年度より 0.6%悪化してしまいました。もう一つの活動指標である CO<sub>2</sub> 排出量は前年度より 3.4%減少となりました。

2025 年度も、生産性改善と省エネルギー設備投資などを積極的に推進し、環境負荷低減に取り組んでいきます。

原油換算エネルギー使用量 (kℓ)



\*2023 年 4 月に省エネ法が改正され、エネルギーの定義の拡大や一次エネルギー換算係数が変わりました。取組みの継続性を確保するため、23 年度は改正前後両方の算定方法による数値を記載しております。

CO<sub>2</sub> 発生量 (t-CO<sub>2</sub>)



エネルギー原単位 (ℓ/km)



\*2023 年 4 月に省エネ法が改正され、エネルギー消費原単位の算定方法が変わりました。取組みの継続性を確保するため、23 年度は改正前後両方の算定方法による数値を記載しております。

# 2024 年度 環境負荷低減と自然回復に向けた取組み

## 省資源・廃棄物削減の取組み

### ● 水資源の有効活用

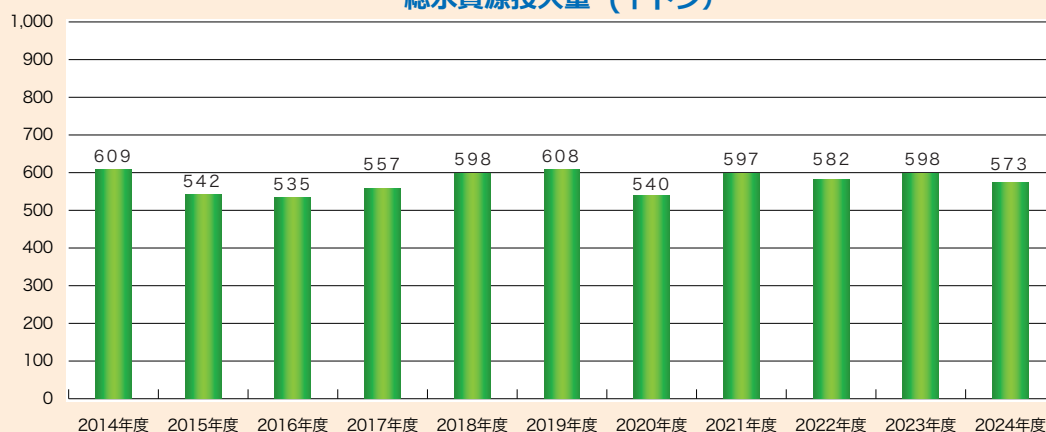
生産工程で使用する洗浄水や冷却水などのリサイクルを推進し、水資源の有効活用に取り組んできました。

2024 年度の総水資源投入量は前年度比 95.8%、総排水量も前年度比 93.1%と削減できました。

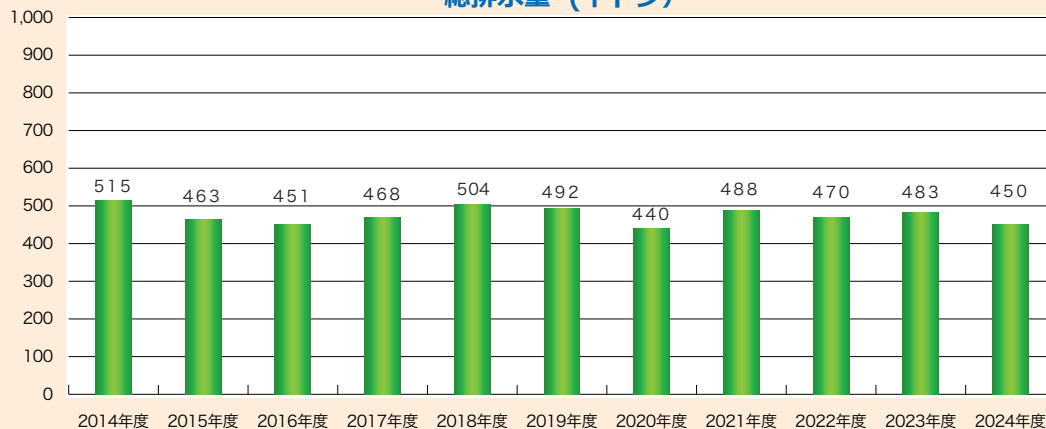
2024 年度より新たに導入した「水消費量（取水元に戻すことのできなかった水量）」は、増加傾向となりました。

2025 年度は、無駄な水資源の利用を見直すとともに、事業場周辺の水環境を意識した活動を推進します。

総水資源投入量（千トン）

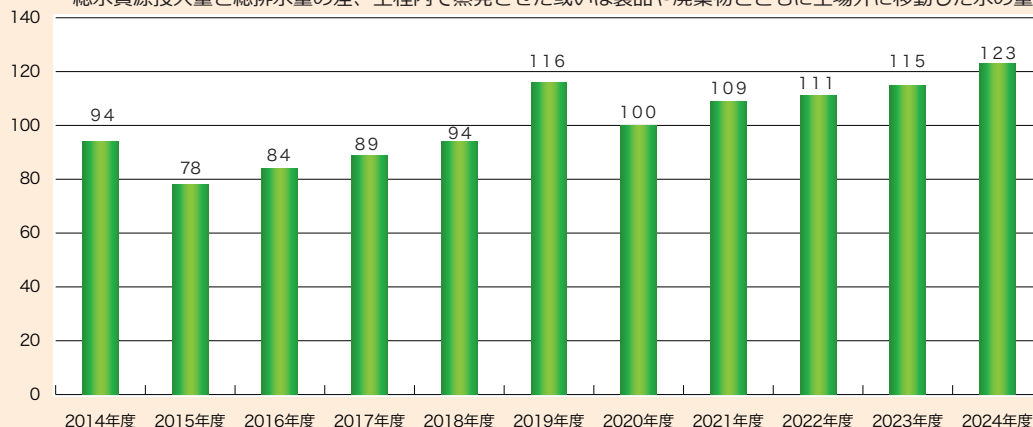


総排水量（千トン）



総消費水量（千トン）

総水資源投入量と総排水量の差、工程内で蒸発させた或いは製品や廃棄物とともに工場外に移動した水の量



※このページの水量には、原料中に存在し工程に投入した水を含んでいません。

# 2024 年度 環境負荷低減と自然回復に向けた取組み

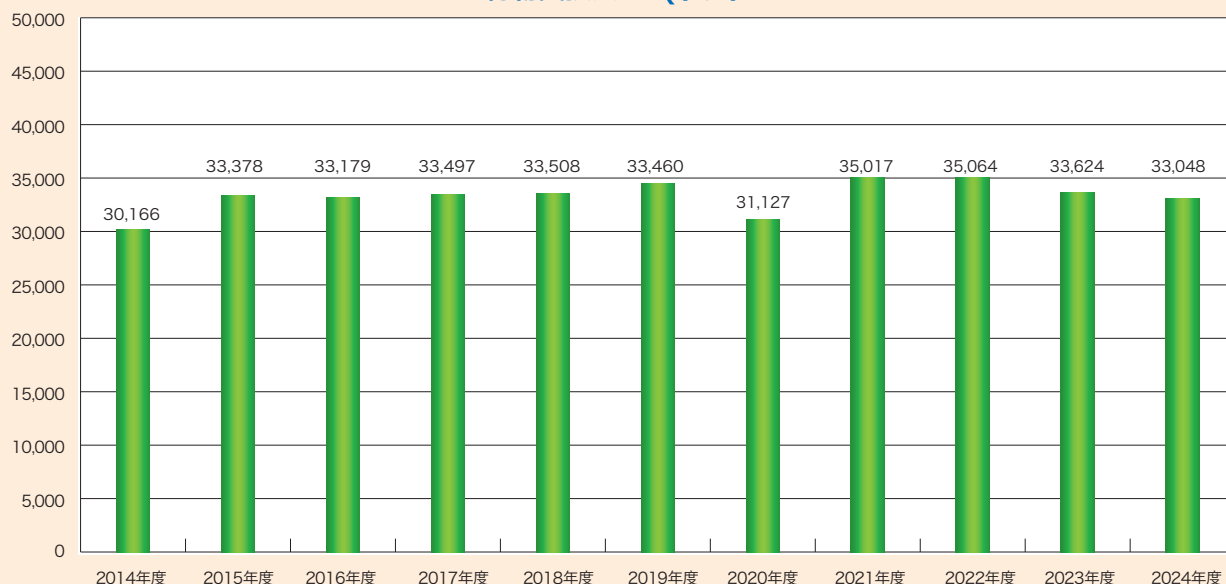
## 省資源・廃棄物削減の取組み

### ● 廃棄物削減の取組み

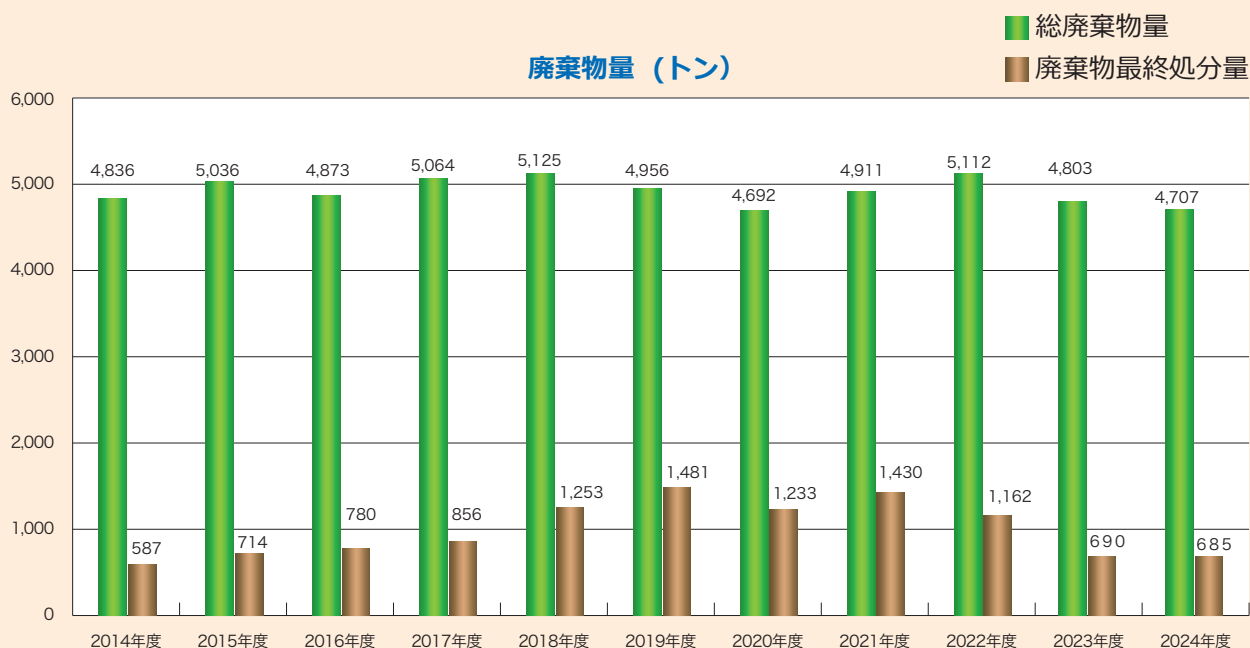
地球環境保全のため、廃棄物の削減に取り組んでいます。廃棄物の発生を抑えるだけでなく、資源の有効利用の観点から、リユース・リサイクルを進めてきました。2024 年度の総物質投入量は、前年比 1.7%減の 33,048 トンでした。総廃棄物量は前年度比 2.0%減の 4,707 トン、廃棄物最終処分量は前年度比 0.7%減となりました。

2025 年度は、廃棄物最終処分量減少を継続するために、排出抑制と再資源化の推進に取り組んでいきます。

総物質投入量 (トン)



廃棄物量 (トン)



# 2024 年度 環境負荷低減と自然回復に向けた取組み

## 省資源・廃棄物削減の取組み

### ● 廃プラスチック削減の取組み

2022 年 4 月 1 日に施行されたプラスチック資源循環促進法の基本原則・基本方針そして、中期経営計画“ SOLID FOUNDATION 2026” の廃棄物最終処分量削減目標を踏まえ、廃プラスチックの有効利用率目標を設定しています。

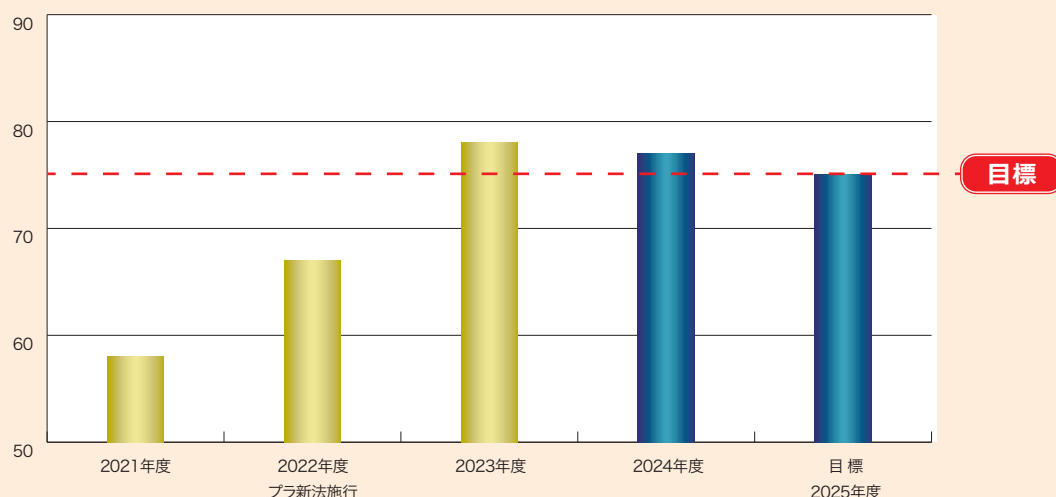
2023 年度は廃プラスチックの処理方法を焼却・埋立処理からサーマルリカバリーなどへの変更を進めました。この結果、有効利用率は前年度比 11% 向上し、有効利用率の最終年度目標を超えた 78% となりました。

2024 年度も有効利用推進に取り組みましたが、有効利用率 77% と最終年度の目標を達成しましたが、大幅な改善効果を出すことが出来ませんでした。2025 年度も引き続き資源循環を念頭にさらなる有効利用推進に取り組んでいきます。

国内 5 工場における廃プラスチックの処理状況

|                  | 2021年度 | 2022年度<br>プラ新法施行 | 2023年度 | 2024年度 | 目標<br>2025年度 |
|------------------|--------|------------------|--------|--------|--------------|
| 最終処分量 (t)        | 1,134  | 948              | 621    | 653    | 625          |
| 再資源化量 (t)        | 1,544  | 1,895            | 2,141  | 2,153  | 1,875        |
| 廃プラスチック排出量合計 (t) | 2,678  | 2,843            | 2,763  | 2,806  | 2,500        |
| 有効利用率            | 58%    | 67%              | 78%    | 77%    | 75%          |

有効利用率



排出量の抑制については、時間はかかりますが、軽量化・素材変更など製品設計を計画的に粘り強く進めてまいります。商品化に至ったものは、環境関連商品として紹介する予定です。

# 2024 年度 環境負荷低減と自然回復に向けた取組み

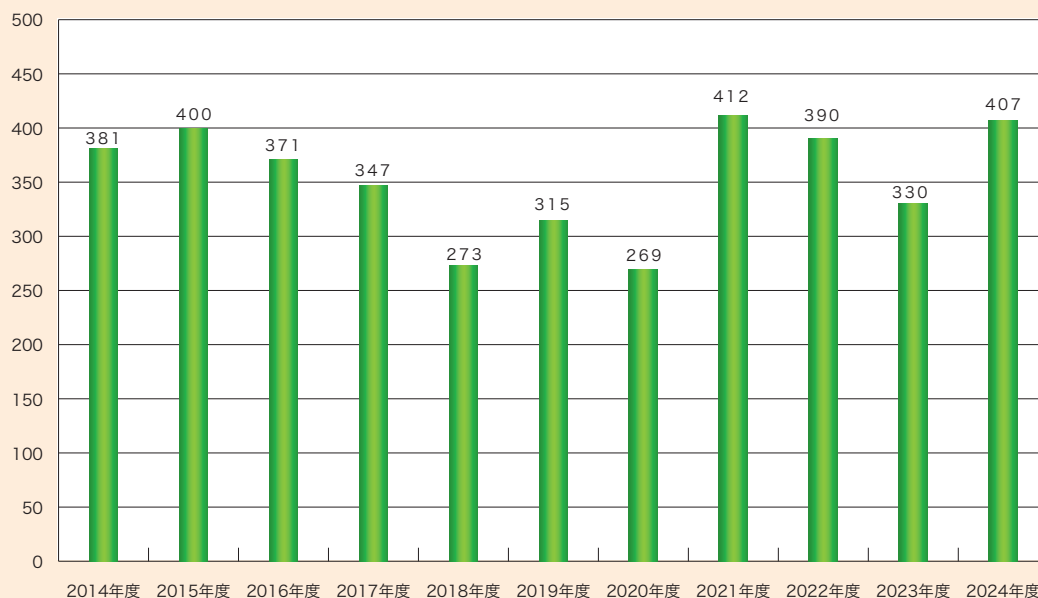
## 化学物質排出削減の取組み

化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）に従い、製造工程で使用している化学物質の環境への排出量の届出を行うとともに、削減に努めています。

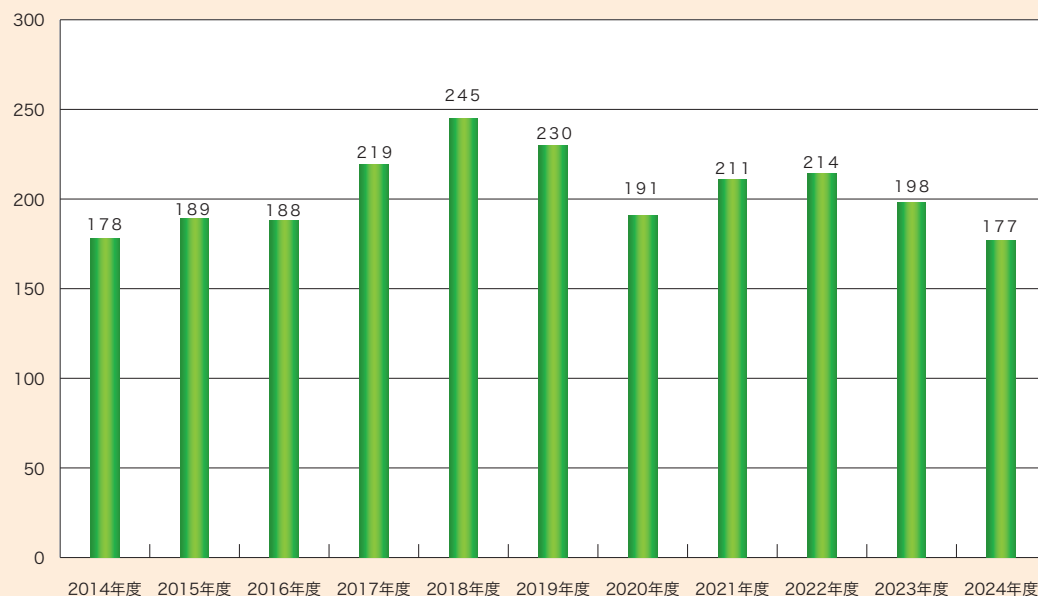
2024 年度は埼玉工場の生産量増加に伴い、排出量が前年度比大幅に増加してしまいました。移動量は 10.9%削減しています。

2025 年度に中長期計画目標である 2016 年度比排出量 35% 削減は達成が非常に困難であると考えます。次の計画期間に取り組むべき削減方策を検討しています。

PRTR対象物質総排出量（トン）



PRTR対象物質総移動量（トン）



# 2024 年度 環境負荷低減と自然回復に向けた取組み

## 化学物質管理と情報伝達の取組み

当社が生産する製品は、化学物質なしに製造することはできません。そして、生産工程で環境へ排出される化学物質のほか、製品の構成成分としてお客様へ出荷されるものもあります。また、製品の製造や使用する過程における化学物質関連法規には、PRTR 法のほか、労働安全衛生法や家庭用品規制法などがあり、これらの法律に適切に対応し、含有化学物質の情報を顧客へ適時に情報伝達すること、そしてこれらの規制を先回りしたより良い製品をお届けすることが重要になっています。

さらに、使用済み製品の廃棄を少しでも少なくするため、より再生のしやすい素材の開発も重要な課題として取り組んでいます。当社製品を皆様に安心・安全にお使いいただくため、2010 年に原材料や製品中の化学物質情報を管理するデータベースを開発し運用しています。

### 主な化学物質管理関連法規

#### 国内

|          |                         |
|----------|-------------------------|
| 主に設計製造過程 | 化学物質審査規制法               |
|          | 化学物質排出把握促進法（PRTR法）      |
|          | 食品衛生法                   |
|          | 労働安全衛生法                 |
|          | 毒物劇物取締法                 |
|          | 消防法                     |
|          | 大気汚染防止法                 |
|          | 水質汚濁防止法                 |
|          | 悪臭防止法                   |
|          | クリーンウッド法                |
| 主に使用廃棄過程 | 家庭用品規制法                 |
|          | 屋内VOC規制                 |
|          | 海洋汚染防止法                 |
|          | 廃棄物処理法                  |
|          | プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律 |

#### 海外

|          |          |
|----------|----------|
| 主に設計製造過程 | RoHS指令   |
|          | ELV指令    |
|          | ドットフランク法 |
| 主に使用廃棄過程 | REACH規則  |
|          | 包装廃棄物規則  |
|          | TSCA     |

### 化学物質情報伝達の状況（SDSの発行数は除く）

| 年度   | 項目           | 環境配慮調達ガイドライン運用状況 |       | 原料情報の把握状況     | 顧客調査依頼対応状況 |        |
|------|--------------|------------------|-------|---------------|------------|--------|
|      | 指標           | 運用率              |       | chemSHERPA入手率 | 顧客依頼件数     | 顧客向回答率 |
|      | 2020         | グリーン調達基準書        | 93.7% | 98.60%        | 596        | 99.33% |
|      | 2021         | グリーン調達基準書        | 95.1% | 98.60%        | 705        | 99.43% |
|      | 2022         | グリーン調達基準書        | 95.1% | 99.40%        | 693        | 99.56% |
|      | 2023         | 環境配慮調達ガイドライン     | 93.0% | 99.10%        | 694        | 99.26% |
| 2024 | 環境配慮調達ガイドライン | 92.1%            |       | 99.20%        | 782        | 99.87% |

※グリーン調達基準書から環境配慮調達ガイドラインへの変更に伴い、集計方法を変更しています。このため、運用率が低下しました。

ダイニックでは、様々な環境規制に対応し「安全で健康的かつ持続可能な未来のために、化学物質や廃棄物の有害な影響から解放された世界へ」というグローバル枠組みのビジョンに基づいた取組みを推進しています。

製品のライフサイクルを通じて「化学物質による有害な影響を防止あるいは最小化する」ために、原料の採掘・採取から製品廃棄にわたる各段階に必要な情報を収集・提供することが必要と考え、chemSHERPA や IMDS といった業界で共通化された情報伝達システムへの対応も進めています。

2022 年度に「CSR 調達基準書」と「環境配慮調達ガイドライン」を制定し 2023 年度から運用を開始しています。

# 2024 年度 環境負荷低減と自然回復に向けた取組み

## 自然との関わりと回復の取組み

当社の活動は原材料としてあるいは製品の使用段階や廃棄において自然へさまざまな影響（インパクト）を与えています。自然へ影響する事業活動が「どの段階において」「どのような経路で」「どれくらいの規模で」「どんな影響を」与えているのか検証作業を行っています。

自然の中に存在する資源は使いすぎることは言うまでもなく影響がありますが、他面使わないことによる影響も考える必要があります。自然を回復するためには「適切な利用が求められる」ということを念頭に製品供給を行っています。

### 自然への依存や影響が大きい原材料と投入量・比率

| 原料種別            | 由来 | 2021     |       | 2022     |       | 2023     |       | 2024     |       |
|-----------------|----|----------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|
|                 |    | 投入量      | 比率    | 投入量      | 比率    | 投入量      | 比率    | 投入量      | 比率    |
| 紙               | 森林 | 6,268.9  | 17.9% | 5,914.5  | 16.9% | 5,791.3  | 17.2% | 5,510.0  | 16.7% |
| レーヨン            | 森林 | 48.5     | 0.1%  | 22.8     | 0.1%  | 44.9     | 0.1%  | 57.5     | 0.2%  |
| 綿               | 森林 | 903.8    | 2.6%  | 84.2     | 0.2%  | 70.5     | 0.2%  | 43.4     | 0.1%  |
| 種子油・大豆油加工品      | 森林 | 0.3      | 0.0%  | 0.3      | 0.0%  | 0.3      | 0.0%  | 0.4      | 0.0%  |
| 植物油脂            | 森林 | 183.2    | 0.5%  | 205.2    | 0.6%  | 201.8    | 0.6%  | 184.1    | 0.6%  |
| 動物油脂            | 森林 | 0.5      | 0.0%  | 0.4      | 0.0%  | 0.4      | 0.0%  | 0.2      | 0.0%  |
| 鉱物派生物           | 鉱山 | 3,651.3  | 10.4% | 3,766.6  | 10.7% | 3,410.9  | 10.1% | 3,339.7  | 10.1% |
| 水（原料の一部としての投入量） | 水  | 1,804.7  | 5.2%  | 2,038.1  | 5.8%  | 2,118.8  | 6.3%  | 2,101.7  | 6.4%  |
| 総投入量            |    | 35,016.5 | --    | 35,064.3 | --    | 33,624.0 | --    | 33,047.6 | --    |

※表中の紙の数値は、木材パルプに由来する紙と再生紙に由来する紙の合計値になっています。

※当社で取水している水資源については、「水資源の有効活用」のページをご参照ください。

### 自然影響の大きい原材料への対応

当社の自然への依存度としては「紙」が最も大きく、また原料調達による自然への影響度として鉱物派生物、特にアルミニウムや水資源が大きいと考えます。

依存度の高い「紙」については、再生紙の利用推進や森林等の破壊がない事が認証されている原紙の購入推進を検討していきます。

また表に記載されていない原材料は石油に依存しています。

原料中の水については、製造地における水環境について、今後検証を進める予定です。

### 自然に関連するリスクと機会

森林資源の枯渇に伴う「紙」供給やアルミ材料の入手のひっ迫による製品製造ライン停止リスクや、水資源枯渇による設備停止リスクのほか、多量の水が特定水系に集中することによる洪水と設備浸水による操業停止などが、自然関連のリスクと認識します。

他方、森林資源を適切に利用し製品の再資源化を推進することによる原材料の安定供給だけでなく、森林利用による従業員の健康促進などが自然関連の機会と考えています。

# 2024 年度 環境負荷低減と自然回復に向けた取組み

## 生物多様性重要地域と関連拠点の距離

| 区 分             | 場 所                                         | 埼玉工場 | 真岡工場 | 王子工場 | 富士工場 | 滋賀工場 | Dynic USA          |
|-----------------|---------------------------------------------|------|------|------|------|------|--------------------|
| ラムサール条約<br>登録湿地 | 渡良瀬遊水地                                      | 35km | 33km | 50km | ---  | ---  | ---                |
|                 | 谷津干潟                                        | 89km | 82km | 30km | ---  | ---  | ---                |
|                 | 葛西海浜公園                                      | 83km | 87km | 21km | ---  | ---  | ---                |
|                 | 芳ヶ平湿地群                                      | 80km | ---  | ---  | ---  | ---  | ---                |
|                 | 奥日光湿原                                       | 63km | 60km | ---  | ---  | ---  | ---                |
|                 | 尾瀬ヶ原                                        | 68km | 78km | ---  | ---  | ---  | ---                |
|                 | 涸沼                                          | ---  | 48km | 87km | ---  | ---  | ---                |
|                 | 琵琶湖                                         | ---  | ---  | ---  | ---  | 8km  | ---                |
|                 | 藤前干潟                                        | ---  | ---  | ---  | ---  | 50km | ---                |
|                 | 中池見湿地                                       | ---  | ---  | ---  | ---  | 52km | ---                |
|                 | 三方五湖                                        | ---  | ---  | ---  | ---  | 53km | ---                |
|                 | 東海高原湿地群                                     | ---  | ---  | ---  | ---  | 84km | ---                |
| 世界遺産(文化)        | 富士山                                         | ---  | ---  | ---  | 10km | ---  | ---                |
| 世界遺産(灌漑)        | 備前渠用水路                                      | 隣接   | ---  | ---  | ---  | ---  | ---                |
| その他の<br>重要空間    | 小山川                                         | 隣接   | ---  | ---  | ---  | ---  | ---                |
|                 | 五行川                                         | ---  | 隣接   | ---  | ---  | ---  | ---                |
|                 | 利根川                                         | 10km | 38km | ---  | ---  | ---  | ---                |
|                 | 田宿川                                         | ---  | ---  | ---  | 隣接   | ---  | ---                |
|                 | Jackson Bottom<br>Wetlands Preserve         | ---  | ---  | ---  | ---  | ---  | less than<br>10 km |
|                 | Columbia River<br>and<br>it's Wildlife area | ---  | ---  | ---  | ---  | ---  | less than<br>30 km |

※各拠点から100km以内を計測、70km以内がリスク評価対象。

※各拠点との距離が10kmを超えている場合、騒音や光害の影響は小さいと考えられますが、地形等の影響を考慮し判断しています。

※各拠点におけるリスクの判定は、対策実施状況や取水量、放水量等を加味しています。

※リスク評価結果は関連事業所のページをご確認ください。

# 2024 年度の事業活動における 環境負荷の全体像 ( マテリアルフロー )

当社企業活動・生産活動のために投入した原材料、エネルギー、水資源 (INPUT) に対して、各種排出物 (OUTPUT) から環境負荷を把握し、効率的な事業活動による資源の有効活用に取り組んでいます。

2024 年度は、産業廃棄物の最終処分量の削減目標を大幅に達成出来ました。

2025 年度は、CO<sub>2</sub> 排出量削減目標の達成を目指し、再エネ活用、省エネ改善に取り組んでいきます。

| INPUT                           |                       |
|---------------------------------|-----------------------|
| <b>エネルギー使用量</b> 12,477kℓ (原油換算) |                       |
| 電力(買電)                          | 29,513 MWh            |
| LNG                             | 1,614 ton             |
| 都市ガス                            | 2,984 千m <sup>3</sup> |
| LPG                             | 28 ton                |
| ガソリン                            | 5 千ℓ                  |
| ※ A 重油は、2024年3月で使用を取りやめました。     |                       |
| <b>水使用量</b> 573 千ton            |                       |
| 地下水                             | 368 千ton              |
| 工業用水                            | 136 千ton              |
| 上水                              | 69 千ton               |
| <b>原材料総投入量</b>                  | 33,048 ton            |

## 事業活動

### ダイニック製品群

出版文具関連  
情報関連  
不織布関連  
衣料関連  
住宅・インテリア関連  
工業用途関連  
特殊材料加工  
包材関連

| OUTPUT                          |                          |
|---------------------------------|--------------------------|
| <b>温室効果ガス(CO<sub>2</sub>排出)</b> |                          |
| 生産からの排出                         | 23,970 t-CO <sub>2</sub> |
| 製品物流からの排出                       | 927 t-CO <sub>2</sub>    |
| ※製品物流は 関連会社に委託しています。            |                          |
| <b>大気への排出</b>                   |                          |
| PRTR対象物質                        | 407 ton                  |
| NOx                             | 5.8 ton                  |
| SOx                             | 0.0 ton                  |
| ばいじん                            | 0.2 ton                  |
| <b>水系への排出</b>                   |                          |
| 排水量                             | 450 千ton                 |
| BOD                             | 1.4 ton                  |
| COD                             | 2.0 ton                  |
| <b>土壌への排出</b> なし                |                          |
| <b>化学物質(PRTR対象物質)</b>           |                          |
| 環境への排出                          | 407 ton                  |
| 廃棄物としての移動                       | 177ton                   |
| <b>廃棄物総発生量</b>                  | 4,707 ton                |
| 焼却・埋立処分量                        | 685 ton                  |
| リサイクル量                          | 2,526 ton                |
| 有価物量                            | 1,496 ton                |
| 再利用率                            | 85 %                     |

リサイクル率 46%

|             |           |
|-------------|-----------|
| 有価物量        | 1,496 ton |
| マテリアルリサイクル量 | 692 ton   |
| 社会で再活用      |           |
| サーマルリカバリー量  | 1,834 ton |

リカバリー率 39%

# 環境関連商品

ダイニック株式会社は社会の発展や、より豊かな暮らしの創造に貢献するさまざまな商品の開発に、鋭意取り組んでいます。そしてそのような新商品を社会に提供することが、事業を通じた社会への貢献につながるものと考えています。当社では、「地球環境と生活環境に配慮した商品」を環境関連商品と定義しています。

## 地球環境に配慮した商品

### 【環境への負荷を低減した商品】

#### ■ 脱塩ビ・脱プラスチック・脱溶剤各種商品

非塩ビファイル（エコファイル）、オレフィン系クロス、※紙製磁気カード、EVAコンテナ、ファイル・バインダー・手帳用表紙クロス水性化 等

#### ■ 再生紙、再生繊維、再生樹脂を使用した各種商品

再生紙使用紙クロス、教科書用紙クロス、背貼り用紙クロス、※再生ポリエステル使用カーペット、※再生ポリエステル使用ニックセブン（シータス） 等

#### ■ 再生可能な資源や持続可能な資源を使用した商品

※バイオマス認証インクリボン（BMC1）、※FSC認証紙クロス（エパロン）、レーヨン100%カラー不織布（パネロンカラーシート）、グリーンマークカード 等

### 【処理処分を考慮した商品】

#### ■ 廃棄のし易さを考慮した商品

ラップ・アルミホイルのカット用紙刃、乳飲料・紙蓋材 等

#### ■ 省資源・3R(Reuse,Recycle,Reduce) に貢献する商品

ストレッチ壁紙、詰替え用サブカセット、自動車天井内装材（軽量化）、有機EL乾燥剤（長期使用性） 等

## 生活環境に配慮した商品

#### ■ 快適な空間を提供する商品

パネロン脱臭フィルター、抗菌消臭壁紙、抗ウイルス壁紙、空気清浄機用フィルター材、不織布床防音材 等

#### ■ 健康・食品の鮮度保持に役立つ商品

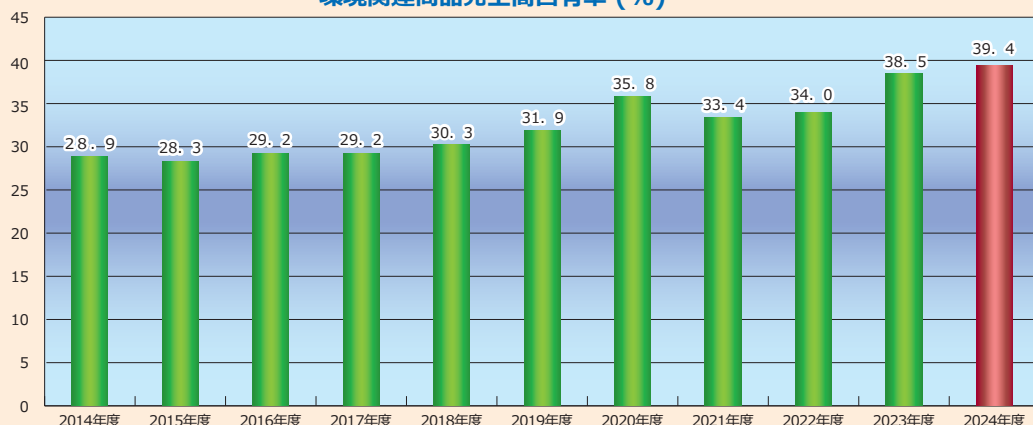
耐水食品包材、食品鮮度保持剤、※エコテックス認証（熱転写インクリボン、ニックセブン表示用ラベル）、パップ材の離型フィルム 等

#### ■ 抗菌・消臭を付与した各種商品

抗菌装丁用クロス 等

※印の商品は第三者認証商品です

環境関連商品売上高占有率（%）



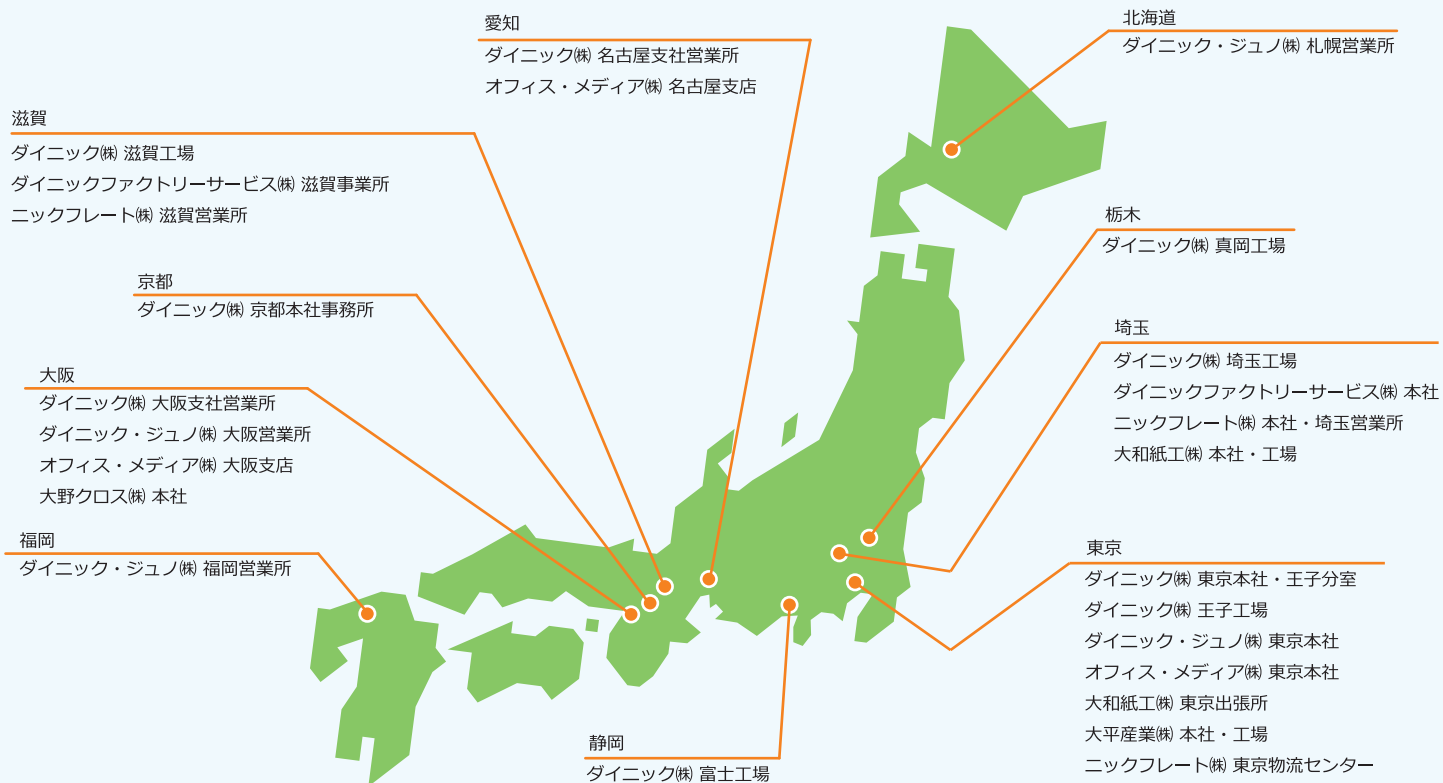
◎ これら環境関連商品の個別の内容説明は、当社ホームページに掲載していますのでご覧ください。

当社は「環境関連商品で社会に貢献する」をキーワードに積極的に商品の開発を行ってきました。2024年度の環境関連商品の当社売上に占める比率は39.4%と目標を達成しました。また、環境関連商品のうち、外部認証を取得している商品は6.2%（環境関連商品売上比、売上高比では2.5%）です。また当社では、より環境に配慮した商品をお届けできるよう、ライフサイクル視点の分析・評価の取組みを進めています。

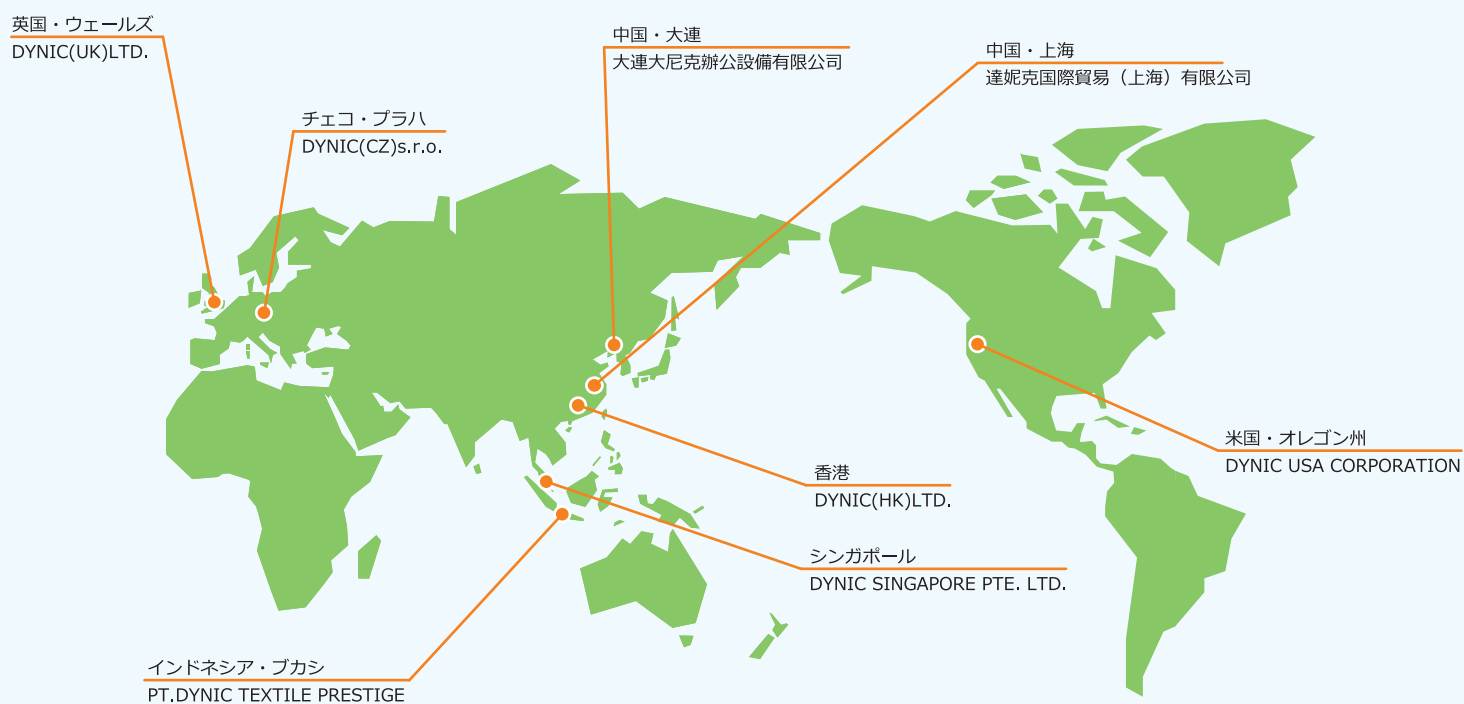
これからも、人の健康と環境に配慮した環境関連商品売上高占有率を上げてゆくことで、社会に貢献してゆきたいと考えております。

# 拠点マップ

## 国内拠点



## 海外拠点



# サステナビリティへの取り組み報告

## 2024 年度 LCA 勉強会 活動状況

当社事業所での環境活動のほか、お客様へ供給する製品の環境配慮、資源循環対応が求められています。2024 年度は、当社製品のライフサイクル（原材料の調達から製造工程、使用及び廃棄）を通しての環境影響評価方法に関する勉強会を開催しました。

勉強会の総括として3月に各研究開発部門から代表的な製品を選び、主に CO<sub>2</sub> に着目したライフサイクルアセスメント（LCA）とその結果を踏まえた環境負荷低減に向けた改善案の検討を行いました。今後も、LCA の視点を取り入れた製品設計開発を推進していきます。

### ● LCA 勉強会の様子



埼玉工場



滋賀工場

### 当社製品ライフサイクルのイメージ



スコープ 1  
スコープ 2

スコープ 3

| スコープ 3  |                    |                                          |         |          |          |          |
|---------|--------------------|------------------------------------------|---------|----------|----------|----------|
| カテゴリー 1 | カテゴリー 3<br>カテゴリー 4 | カテゴリー 2<br>カテゴリー 5<br>カテゴリー 6<br>カテゴリー 7 | カテゴリー 9 | カテゴリー 10 | カテゴリー 11 | カテゴリー 12 |

※スコープ 3 のカテゴリー 8, 13, 14, 15 に該当する当社活動はありません。

# 2024年度 拠点ごとの活動状況

## 滋賀工場 ～ハイテクと自然との調和をめざすモデル工場～

滋賀工場は、琵琶湖水系の清らかな水と澄んだ空気が育んだ緑の山々に囲まれた約35万平方メートルという広大な敷地を持つダイニック最大の工場です。ここではダイニック独自の高度なテクノロジーをバックボーンにして、ブッククロス、壁紙、有機EL用水分除去シート、床用吸音材、パップ剤用フィルム加工などのダイニックの主要製品の数々が生産されています。豊かな自然環境の恩恵を受けたこの工場はまた、自身も自然環境との調和、およびその保全を重視してきました。排水処理を完備し、資源のリサイクル活用にも力を注ぎ、省エネ・無公害をテーマとしたモデル工場として高い評価を得ています。



### 環境指数の実績

| 項目       | エネルギー原単位<br>(kℓ/km) | CO <sub>2</sub> 排出量(t) | 水資源投入量<br>(千t) | 総廃棄物量(t) | 最終処分量(t) | PRTR対象物質<br>排出量(t) |
|----------|---------------------|------------------------|----------------|----------|----------|--------------------|
| 2023年度実績 | 0.0674              | 9,638                  | 175            | 1,766    | 228      | 5                  |
| 2024年度実績 | 0.0714              | 9,637                  | 174            | 1,866    | 236      | 3                  |
| 前年比      | 106.0%              | 100.0%                 | 99.4%          | 105.7%   | 103.4%   | 57.9%              |

※省エネ法が改正され、原単位の計算方法が変更されました。このため、環境報告書2025に限り、前年度実績を併記しています。

### 生物多様性重要地域との関わり

#### ●滋賀工場周辺の生物多様性重要地域との関わり

生物多様性保全（回復）に重要な空間として「ラムサール条約登録湿地」や「世界遺産」、「その他の重要な空間」などがあります。滋賀工場はラムサール条約湿地に登録されている琵琶湖から直線距離8kmに位置しており、事業活動から発生する排水は、滋賀県や近隣地域自治体の水質基準よりも厳しい自主基準をクリアした上で放流しています。また、万一の事故時には汚濁水が敷地外に流出しないよう、貯留池にて回収する仕組みにしており、定期的に回収訓練を行っています。その他、近隣地域での生物多様性保全の様々な取組みに積極的に参画しています。

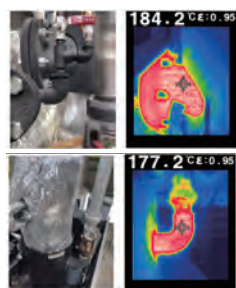
| 分類          | 名称  | 直線距離 |
|-------------|-----|------|
| ラムサール条約登録湿地 | 琵琶湖 | 8 km |

### 環境負荷低減のために ～再生可能エネルギーの活用～ カーボンニュートラルへの取組み

#### ●蒸気ボイラ本体保温施工による放熱ロス削減

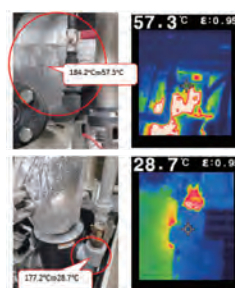
工場内の蒸気使用設備系統での熱の有効活用に取り組んでいます。

2024年度には蒸気ボイラ本体からの放熱ロスに着目し、保温施工を実施したことで、大幅な放熱ロス削減となり、ボイラ燃料である都市ガス使用量を削減することができました。CO<sub>2</sub>排出量の削減効果として、年間5.4tのCO<sub>2</sub>排出量削減を見込んでいます。



改善前

改善後



# 2024年度 拠点ごとの活動状況

## 生物多様性保全への取組み・地域とともに

### ●ゴミゼロ清掃活動

滋賀工場の地元多賀町では、滋賀県が環境美化の日と定める5月30日（ゴミゼロ）の前後に清掃活動を毎年行っています。当社もこの活動に賛同し、5月26日（日）に、多賀町の国道306号線沿いのゴミゼロ清掃活動に今年も10名が参加しました。



### ●森林保全活動

10月5日（土）に多賀町高取山ふれあい公園で開催された公益社団法人滋賀県環境保全協会主催の「森林整備ボランティア活動」に今年も当社から10名が参加し、枝打ち作業、雑木の伐採・整理、下草刈りの森林整備を行いました。活動エリアは滋賀県でも希少種指定されている山野草が100種類以上も存在する自然豊かな地域です。この自然豊かな森を将来にわたって育て・守るための活動に今後も参加させていただきます。



### ●びわ湖を美しくする運動

滋賀県では「びわ湖の日」と定める7月1日を基準日として、県下全域で環境美化運動「びわ湖を美しくする運動」を毎年行っています。当社もこの活動に賛同し、7月5日（金）に、彦根港周辺の湖岸清掃活動に今年も7名が参加しました。



# 2024年度 拠点ごとの活動状況

## 埼玉工場 ～未来志向の高度な複合技術と最新のFAライン～

ダイニツクの東の生産拠点である埼玉工場は、技術開発に力をおいた未来指向の工場として稼動しています。高度な複合技術と最新の自動化・FA（Factory Automation）ラインを駆使して、情報業界の最先端を支えるハitek製品から、生活に密着した産業製品まで幅広く網羅。その生産体制は6つの工場から成り立っており、それぞれ紙クロス、ビニルクロス、ターポリン、インクリボン、FFC（ファインフィルムコーティング）、カーペット、不織布を担当しています。地域・環境対策にも怠りはなく、緑化推進や産業廃棄物のリサイクルシステムは、公共機関などからも高い信頼をもって認知されています。

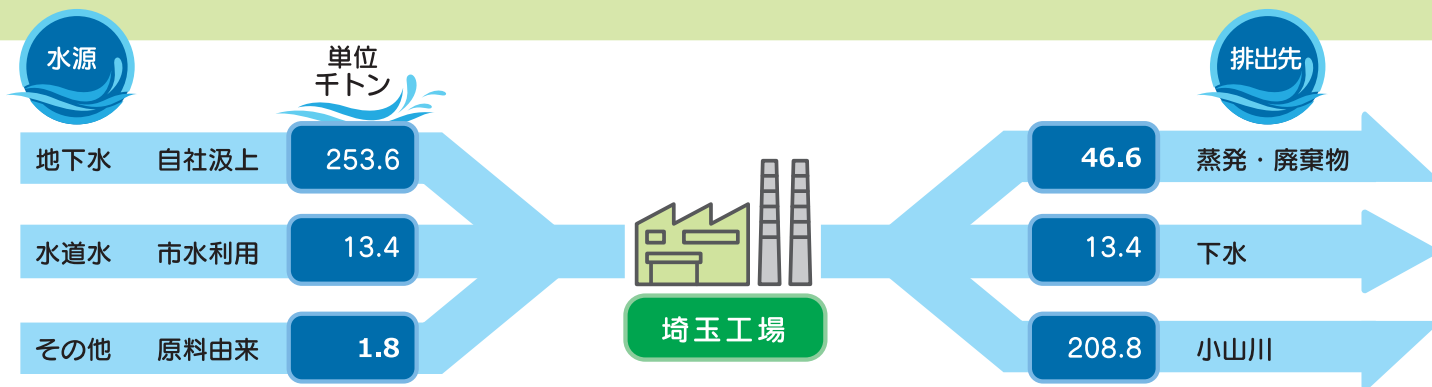


### 環境指数の実績

| 項目       | エネルギー原単位<br>(kℓ/km) | CO <sub>2</sub> 排出量(t) | 水資源投入量<br>(千t) | 水資源取水量<br>(千t) | 水資源消費量<br>(千t) | 総廃棄物量(t) | 最終処分量(t) | PRTR対象物質<br>排出量(t) |
|----------|---------------------|------------------------|----------------|----------------|----------------|----------|----------|--------------------|
| 2023年度実績 | 0.0428              | 11,298                 | 248.8          | 267.0          | 43.9           | 1,972    | 338      | 306                |
| 2024年度実績 | 0.0411              | 10,704                 | 268.8          | 253.6          | 44.9           | 1,892    | 380      | 385                |
| 前年比      | 96.0%               | 94.7%                  | 94.4%          | 95.0%          | 102.1%         | 95.9%    | 112.5%   | 125.8%             |

※省エネ法が改正され、原単位の計算方法が変更されました。このため、環境報告書2025に限り、前年度実績を併記しています。

### 埼玉工場における水資源のフロー（※地下水をくみ上げている工場のみ算出しています。）



埼玉工場では、汲上・利用した水の量と元の流域への戻す水の量の差が44.9千トンあります。この数値が大きいほど下流域への影響が大きいと考えています。今後、汲上水量と放流水量の差を小さくするべく活動していきます。

### 環境整備の取組み

#### ●出入口スロープの設置

事務所棟の入口にスロープを新設しました。

より快適に、多くの方に安心してご利用いただけるよう、これからも整備をしていきます。



# 2024年度 拠点ごとの活動状況

## 生物多様性重要地域との関わり

### ● 埼玉工場周辺の生物多様性重要地域との関わり

生物多様性保全(回復)に重要な空間として「ラムサール条約登録湿地」や「世界遺産」、「その他の重要な空間」などがあります。埼玉工場から直線距離で100km以内にある表中の重要空間について活動影響評価を実施しました。その結果、ラムサール条約登録湿地6か所については、直線距離で30km以上離れている点から騒音や光害などによる直接影響は極めて小さいと判断しています。また、これら6か所は埼玉工場が面している河川とは異なる水系に位置しており、水質汚染等の影響が及ぶ可能性も小さいと判断しています。

工場の南に隣接する備前渠用水路へは、雨水以外の水が流入しないよう設備を配置・操作手順を定め、年1回対応訓練を行っています。北側に隣接する小山川へは、排水処理施設を設け、処理後の水は水質汚濁防止法で定める基準より厳しく設定した自主基準値に適合していることを確認してから放流しています。また、小山川と備前渠用水路に工場が面している道路において月一回清掃活動を実施しています。

| 分類          | 名称          | 直線距離  | 直接影響     |
|-------------|-------------|-------|----------|
| ラムサール条約登録湿地 | 渡良瀬遊水地      | 35 km | 小(距離が遠い) |
|             | 奥日光の湿原      | 63 km | 小(距離が遠い) |
|             | 尾瀬ヶ原        | 68 km | 小(距離が遠い) |
|             | 芳が平湿地群      | 80 km | 小(距離が遠い) |
|             | 葛西海浜公園      | 83 km | 小(距離が遠い) |
|             | 谷津干潟        | 89 km | 小(距離が遠い) |
| 世界灌漑遺産      | 備前渠用水路      | 隣接    | 小(対策済)   |
| その他の重要空間    | 小山川(利根川の支流) | 隣接    | 大        |
|             | 利根川         | 10 km | 小(対策済)   |

※影響の判定は、対策実施状況や取水量、放水量等を加味しています。

## 生物多様性保全への取組み

### ● 地域とともに

埼玉工場では毎月1回、備前渠用水路沿いと小山川遊歩道を含めた工場周辺の清掃活動を行っています。2024年度は合計12回実施し、タバコの吸い殻や食品の包装、飲料ボトルなどを回収しました。

各回10名前後の参加ですが、この活動により、周辺にお住まいの方や自治体の方々を含めた地域とのつながりを深めたいと考えています。



### 2024年度埼玉工場周辺清掃活動の記録

| 実施日              | 参加人数 |
|------------------|------|
| 2024年4月5日(1回目)   | 10   |
| 2024年5月10日(2回目)  | 10   |
| 2024年6月7日(3回目)   | 10   |
| 2024年7月5日(4回目)   | 9    |
| 2024年8月6日(5回目)   | 10   |
| 2024年9月6日(6回目)   | 10   |
| 2024年10月8日(7回目)  | 10   |
| 2024年11月7日(8回目)  | 10   |
| 2024年12月6日(9回目)  | 10   |
| 2025年1月10日(10回目) | 10   |
| 2025年2月7日(11回目)  | 10   |
| 2025年3月7日(12回目)  | 10   |

### ● 地域とともに

備前渠用水路は、現在も農業用水として地域で利用されています。このような状況を鑑み、万が一の漏出事故に備えた用水路への水門を閉じる訓練を年1回実施しています。

備前再生の力です



# 2024年度 拠点ごとの活動状況

## 埼玉工場 ～未来志向の高度な複合技術と最新の FA ライン～

### 生物多様性保全への取り組み

#### ●特定外来種への対応

昨年度行った桜の被害リスク評価に基づき、対応優先度が高いと判断した7本を伐採しました。この7本はすでに落枝等も発生しており、事故防止のため除去しました。その後、切り株3個の傍芽再生を確認し成長を観察していましたが、誤って除草剤を噴霧してしまい枯死してしまいました。今後、新たな株の植樹を検討しています。



傍芽再生の様子

伐採後の様子



桜の木が伐採され日当たりが良くなったためか、ドウダンツツジが例年より多く開花しました。



クビアカツヤカミキリを薬剤散布により防除しているヤマザクラのサクランボ。感染が抑制されているせいか、例年より着果数が多い気がしています。

## 真岡工場 ～管理のゆきとどいた作業環境で、安全な品質をお届けしています～

真岡工場は、アルミ箔蓋材をはじめ急速に多様化する蓋材のニーズに対し、アルミ箔加工の技術基盤を活かし、フィルムとの複合蓋材への対応を実現して、食品や産業用の軟包材分野で厚い信頼をいただいています。

保有技術のいっそうの活用をはかり、「つぎ」へのチャレンジを行なっています。



### 環境指数の実績

| 項目       | エネルギー原単位<br>(kℓ/km) | CO <sub>2</sub> 排出量(t) | 水資源投入量<br>(千t) | 水資源取水量<br>(千t) | 水資源消費量<br>(千t) | 総廃棄物量(t) | 最終処分量(t) | PRTR対象物質<br>排出量(t) |
|----------|---------------------|------------------------|----------------|----------------|----------------|----------|----------|--------------------|
| 2023年度実績 | 0.00816             | 1,929                  | 121.5          | 121.1          | 0.0            | 538      | 23       | 18                 |
| 2024年度実績 | 0.00825             | 1,857                  | 114.5          | 114.0          | 0.0            | 502      | 10       | 17                 |
| 前年比      | 101.0%              | 96.3%                  | 94.2%          | 94.2%          | 0.0%           | 93.5%    | 42.5%    | 94.4%              |

※省エネ法が改正され、原単位の計算方法が変更されました。このため、環境報告書2025に限り、前年度実績を併記しています。

### 省エネルギーの取り組み

#### ●コンプレッサーの更新

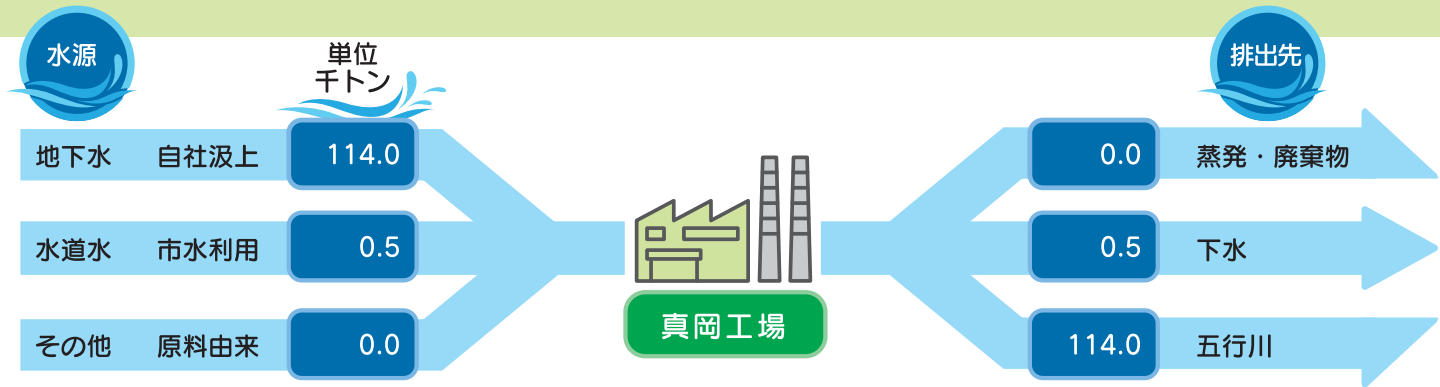
3台のレシプロコンプレッサーからスクリーコンプレッサー1台へ更新統合しました。この更新により消費電力を1.1%、CO<sub>2</sub>の排出を年間17.2ton削減できる見込みです。



# 2024年度 拠点ごとの活動状況

## 真岡工場 ～管理のゆきとどいた作業環境で、安全な品質をお届けしています～

真岡工場における水資源のフロー（※地下水をくみ上げている工場のみ算出しています。）



### 生物多様性重要地域との関わり

#### ● 真岡工場周辺の生物多様性重要地域との関わり

生物多様性保全(回復)に重要な空間として「ラムサール条約登録湿地」や「世界遺産」、「その他の重要な空間」などがあります。真岡工場から直線距離で100km以内にある表中の重要空間について活動影響評価を実施しました。その結果、ラムサール条約登録湿地6か所とその他の重要空間としての利根川が対象となりました。ラムサール条約登録湿地6か所とは直線距離で30km以上離れている点から騒音や光害などによる直接影響は極めて小さいと判断しています。またこれらのうち「奥日光の湿原」は真岡工場が面している河川とは同一の水系に位置しますが工場取水・排水場所より上流にあり、その他の5か所は異なる水系に位置しており、水質汚染等の影響が及ぶ可能性も小さいと判断しています。

その他の重要空間としての利根川は真岡工場の設備冷却水の排水先である五行川が小貝川を経て合流している河川です。利根川の水は水道水源などとして利用されています。

| 分類          | 名称                | 直線距離  | 直接影響     |
|-------------|-------------------|-------|----------|
| ラムサール条約登録湿地 | 渡良瀬遊水地            | 33 km | 小（距離が遠い） |
|             | 奥日光の湿原            | 82 km | 小（距離が遠い） |
|             | 尾瀬ヶ原              | 87 km | 小（距離が遠い） |
|             | 涸沼                | 48 km | 小（距離が遠い） |
|             | 葛西海浜公園            | 60 km | 小（距離が遠い） |
|             | 谷津干潟              | 78 km | 小（距離が遠い） |
| その他の重要空間    | 五行川（小貝川を経て利根川へ合流） | 2 km  | 大        |
|             | 利根川               | 38 km | 小（対策済）   |

※影響の判定は、対策実施状況や取水量、放水量等を加味しています。

# 2024年度 拠点ごとの活動状況

## 富士工場 ～再生の出来る環境に優しい製品を作り出しています～

富士工場では、クリーンな作業環境と厳しい品質管理のもとで食品用の紙管容器、産業用（発炎筒）紙管などを製造しています。地球環境にやさしい素材の追求で、「つぎ」へのチャレンジを行っています。



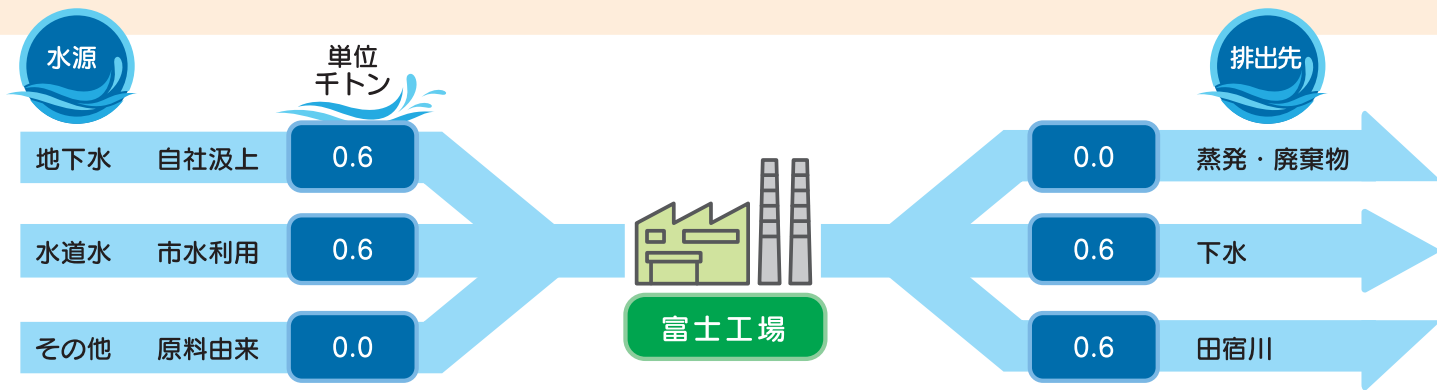
### 環境指数の実績

| 項目       | 省エネ原単位<br>(kℓ/km) | CO <sub>2</sub> 排出量(t) | 水資源投入量<br>(千t) | 水資源取水量<br>(千t) | 水資源消費量<br>(千t) | 総廃棄物量(t) | 最終処分量(t) | PRTR対象物質<br>排出量(t) |
|----------|-------------------|------------------------|----------------|----------------|----------------|----------|----------|--------------------|
| 2023年度実績 | 0.000436          | 252                    | 1.2            | 0.6            | 0.0            | 73       | 6        | 0                  |
| 2024年度実績 | 0.000469          | 290                    | 1.2            | 0.6            | 0.0            | 79       | 10       | 0                  |
| 前年比      | 107.5%            | 114.8%                 | 101.3%         | 103.9%         | 0.0%           | 108.1%   | 145.7%   | —                  |

※富士工場では、P R T R法の対象物質を法基準を超えて取り扱っていません。

※省エネ法が改正され、原単位の計算方法が変更されました。このため、環境報告書2025に限り、前年度実績を併記しています。

### 富士工場における水資源のフロー（※地下水をくみ上げている工場のみ算出しています。）



### 生物多様性重要地域との関わり

#### ●富士工場周辺の生物多様性重要地域との関わり

生物多様性保全（回復）に重要な空間として「ラムサール条約登録湿地」や「世界遺産」、「その他の重要な空間」などがあります。富士工場は世界遺産の一つである富士山の裾野南端に位置し、山頂からの直線距離もおおよそ20km、最寄りの構成遺産からは10kmの位置にあります。騒音や夜間の光害の影響が少なくなるよう、北側の窓に目張りをするなど配慮を行っています。その他の重要な空間として、工場南側を流れる田宿川があります。田宿川は富士山に降った雨が地下浸透し、溶岩帯の下を通り抜けて湧き出した水を水源とし、下流の滝川を経て田子の浦湾にそそいでいます。富士工場内にも、田宿川へそそぐ湧水があり、環境美化に努めています。

| 分類        | 名称  | 直線距離            | 直接影響   |
|-----------|-----|-----------------|--------|
| 世界遺産（文化）  | 富士山 | 最寄りの構成遺産から10 km | 小（対策済） |
| その他の重要な空間 | 田宿川 | 隣接              | 小（対策済） |

※影響の判定は、対策実施状況や取水量、放水量等を加味しています。

# 2024年度 拠点ごとの活動状況

## 環境配慮の取組み

### ●電動フォークリフトの導入

原材料の納入時及び製品出荷時に使用しているフォークリフトを電動化しました。  
ガソリン車からの置換えにより、CO<sub>2</sub>排出量1.2トンの削減につながっています。また、  
置換えにより工場内専用の輸送機器はすべて電動となりました。



### ●再生可能エネルギー導入に向けて

主建屋屋上への太陽光パネル（発電能力：171 k w）設置工事が始まりました。再生  
可能エネルギーの一つである太陽光を利用した本発電所は 25 年度中に稼働する予定で  
す。



## 田宿川の野鳥

工場南側を流れる田宿川は、富士山  
からの伏流水が集まって流れを作っ  
ています。大雨の降った翌日でも写真の  
ような透明度を回復していました。



# 2024年度 拠点ごとの活動状況

## 王子工場 ～確かな食品安全・品質管理で、信頼を得ています～

王子工場は、主にアルミ箔蓋材やインナーシール蓋材を製造しています。  
アルミ箔蓋材は、英国より「レクトラシール（登録商標）」の技術を導入して以来この分野での高いシェアを獲得してきました。これは、アルミ箔を高周波で加熱して自社ブランドのホットメルト接着剤を容器に接着する技術であり、開封性と密封性を両立することでお客様の商品の品質向上に貢献しています。

また、世界規模での食の安全・品質の向上に対応するため、食品安全マネジメントシステムFSSC22000 認証を取得し、HACCPに基づく衛生管理を取り入れ、保有するクリーンルーム設備をはじめ衛生管理の行き届いた作業環境の工場で蓋材の生産をしています。



### 環境指数の実績

| 項目       | エネルギー原単位<br>(kℓ/km) | CO <sub>2</sub> 排出量(t) | 水資源投入量<br>(千 t) | 総廃棄物量(t) | 最終処分量(t) | PRTR対象物質<br>排出量(t) |
|----------|---------------------|------------------------|-----------------|----------|----------|--------------------|
| 2023年度実績 | 0.0423              | 1,574                  | 17.3            | 455      | 94       | 2                  |
| 2024年度実績 | 0.0429              | 1,363                  | 16.9            | 369      | 50       | 2                  |
| 前年比      | 101.3%              | 86.6%                  | 97.3%           | 81.0%    | 52.4%    | 106.7%             |

### 王子工場における水資源のフロー（※地下水をくみ上げている工場のみ算出しています。）

王子工場で使用している水は、すべて上水道です。自社内での地下水や河川水の取水を行っておらず、原料に由来する水資源の移動もありません。  
また、すべて下水道へ排水しています。

### 生物多様性重要地域との関わり

#### ●王子工場周辺の生物多様性重要地域との関わり

生物多様性保全（回復）に重要な空間として「ラムサール条約登録湿地」や「世界遺産」、「その他の重要な空間」などがあります。王子工場から直線距離で 100 km 以内にある表中の重要空間について活動影響評価を実施しました。その結果、ラムサール条約登録湿地 4 か所が該当しましたが、直線距離で 20 km 以上離れている点から騒音や光害などによる直接影響は極めて小さいと判断しています。またこれらのうち「葛西海浜公園」は王子工場が面している河川（新河岸川）と同一の水系に位置しますが、当該水系に排水を行っていません。その他の 3 か所は異なる水系に位置しており、水質汚染等の影響が及ぶ可能性は小さいと判断しています。

| 分類          | 名称     | 直線距離 | 直接影響     |
|-------------|--------|------|----------|
| ラムサール条約登録湿地 | 渡良瀬遊水地 | 50km | 小（距離が遠い） |
|             | 涸沼     | 87km | 小（距離が遠い） |
|             | 葛西海浜公園 | 21km | 小（対策済み）  |
|             | 谷津干潟   | 30km | 小（距離が遠い） |

※影響の判定は、対策実施状況や取水量、放水量等を加味しています。

# 2024年度 拠点ごとの活動状況

## 王子工場 ～確かな食品安全・品質管理で、信頼を得ています～

### 環境負荷低減のために ～省エネルギー設備導入～ 低炭素の取組み

#### ●クリーンルーム用空調機更新

クリーンルームのエリアの拡張工事に合わせ、空調機を更新しました。高効率空調機への更新により、年間 34.8 t の CO<sub>2</sub> の排出量を削減できる見込みです。



### 東京本社

| 項目  | CO <sub>2</sub> 排出量(t) |
|-----|------------------------|
| 実績  | 64                     |
| 前年比 | 95.5%                  |

### 王子分室

| 項目  | CO <sub>2</sub> 排出量(t) |
|-----|------------------------|
| 実績  | 32                     |
| 前年比 | 87.8%                  |

### 大阪支社営業所

| 項目  | CO <sub>2</sub> 排出量(t) |
|-----|------------------------|
| 実績  | 19                     |
| 前年比 | 120.5%                 |

### 名古屋支社営業所

| 項目  | CO <sub>2</sub> 排出量(t) |
|-----|------------------------|
| 実績  | 2                      |
| 前年比 | 93.4%                  |

# 2024年度 国内グループ会社の活動状況

## ダイニック・ジュノ株式会社

ダイニックグループ製品を中心に、インテリア製品をはじめとしてブッククロス、ビニル、不織布、情報関連製品など多様な商品を取扱っています。1942年設立。

### 環境指数の実績

| 項目  | CO <sub>2</sub> 排出量(t) |
|-----|------------------------|
| 実績  | 46                     |
| 前年比 | 101.8%                 |



## 大和紙工株式会社

1961年、ダイニック製品の加工、断裁、巻取り、包装を中心にスタート。いまでは、総合コンバーター企業として幅広い分野で躍進しています。  
98年から、鮮度保持剤「フレッシュドット」の製造・販売を行っています。

### 環境指数の実績

| 項目  | CO <sub>2</sub> 排出量(t) | 総廃棄物量(t) | 最終処分量(t) |
|-----|------------------------|----------|----------|
| 実績  | 194                    | 262      | 13       |
| 前年比 | 87.7%                  | 90.2%    | 162.9%   |



## ニックフレート株式会社

ダイニックグループの動脈。大型、中型、小型のトラックを駆使して関東・関西に路線網を確立、2007年12月に鉄道貨物運送の許可を取得して通運事業に参入、さらなる飛躍をめざしています。1971年設立。

### 環境指数の実績

| 項目  | CO <sub>2</sub> 排出量(t) | 総廃棄物量(t) | 最終処分量(t) |
|-----|------------------------|----------|----------|
| 実績  | 990                    | 4        | 0        |
| 前年比 | 94.1%                  | 79.8%    | —        |



### 陸送事業における活動状況

| 年度                                          | 2019  | 2020  | 2021 | 2022  | 2023 | 2024 |
|---------------------------------------------|-------|-------|------|-------|------|------|
| CO <sub>2</sub> 排出量<br>(t-CO <sub>2</sub> ) | 1,120 | 1,048 | 943  | 1,196 | 995  | 927  |
| モーダルシフト率<br>(%)                             | 1.8%  | 2.4%  | 1.1% | 1.4%  | 1.8% | 1.8% |

### 外部認証取得状況

Gマーク認定事業所：埼玉営業所、滋賀営業所

# 2024年度 国内グループ会社の活動状況

## ダイニック・ファクトリーサービス株式会社

ダイニック各工場の工場設備ならびに工場周辺の保安・保全、環境整備、合成樹脂など二次加工品の加工・販売を行っています。また、各種園芸用品も取扱っています。1989年設立。

### 環境指数の実績

| 項目  | CO <sub>2</sub> 排出量(t) | 水資源投入量<br>(千 t) | 総廃棄物量(t) |
|-----|------------------------|-----------------|----------|
| 実績  | 44                     | 0.3             | 0        |
| 前年比 | 125.5%                 | 970.0%          | 52.0%    |



## オフィス・メディア株式会社

自社企画の各種ビジネスフォーム、帳票類、コンピュータサプライ品および周辺機器、文書セキュリティ用機器・用紙の販売を行っております。設立は、1986年。

### 環境指数の実績

| 項目  | CO <sub>2</sub> 排出量(t) |
|-----|------------------------|
| 実績  | 67                     |
| 前年比 | 86.2%                  |



## 大平産業株式会社

大平産業は紙管・紙加工品の販売を行っている会社で、紙の他にも機械修理、金属彫刻などを手がけています。

### 環境指数の実績

| 項目  | CO <sub>2</sub> 排出量(t) | 水資源投入量<br>(千 t) | 総廃棄物量(t) |
|-----|------------------------|-----------------|----------|
| 実績  | 25                     | 0.3             | 2        |
| 前年比 | 97.6%                  | 100.0%          | 224.0%   |



## 大野クロス株式会社

ブッククロスをはじめとして通帳用クロス、商標布、各種人工・合成皮革の販売を行っています。1969年設立。

### 環境指数の実績

| 項目  | CO <sub>2</sub> 排出量(t) |
|-----|------------------------|
| 実績  | 3                      |
| 前年比 | 100.0%                 |



# 2024年度 海外グループ会社の活動状況

## DYNIC USA CORPORATION

1988年、米国・オレゴン州ヒルズボロに設立。バーコード用サーマルトランスファーリボン・タグ用ファブリックシートなどを製造・販売、北米・中南米に輸出しています。

### 本社・工場

4750 N.E.Dawson Creek Drive, Hillsboro,  
Oregon 97124, U.S.A

TEL: +1-503-693-1070 FAX: +1-503-648-1185

<https://www.dynic.com/>



### 環境指数の実績

| 項目  | CO2排出量(t) | 水資源投入量(千t) | 総廃棄物量(t) | 最終処分量(t) |
|-----|-----------|------------|----------|----------|
| 実績  | 1,466     | 6.8        | 590      | 425      |
| 前年比 | 114.2%    | 99.3%      | 105.7%   | 104.5%   |

### 生物多様性重要地域との関わり

#### ●ダイニク USA 周辺の生物多様性重要地域との関わり

Jackson Bottom Wetlands Preserve は、1970 年以前は廃棄物が投棄されていた湿地ですが、80 年代以降周辺自治体等の活動で自然環境の回復・維持活動が行われています。当社も 1997 年から当湿地においてステークホルダー間の親睦の場として整備活動を行っています。なお、当社事業所近隣の水系と異なる水系のため当社事業活動による影響は小さいと判断しています。

Columbia River and it's Wildlife area は、当社事業所周辺の水系水が流入する河川です。しかしながら Dynic USA では Columbia River へ続く周辺河川への排水放流は行っていません。

| 分類       | 名称                                    | 直線距離   | 直接影響      |
|----------|---------------------------------------|--------|-----------|
| その他の重要空間 | Jackson Bottom Wetlands Preserve      | 10km未満 | 小（水系が異なる） |
|          | Columbia River and it's Wildlife area | 30km未満 | 小（距離が遠い）  |

※影響の判定は、対策実施状況や取水量、放水量等を加味しています。

### 環境負荷低減のために ～省エネルギー設備導入～

#### ●Solar panel project

ダイニク USA では、環境に配慮したクリーン・エネルギーの導入手段として、建屋屋上への太陽電池パネル設置計画を検討しています。2026 年までにこのプロジェクトを実現するべく活動を進めています。

### 生物多様性保全の取組み

#### ●湿地保全活動

2025 年、ダイニク USA が Jackson Bottom Wetlands Preserve の保全活動に参加して 27 年目を迎えました。

オレゴン州ヒルズボロ市にある Jackson Bottom Wetlands Preserve は、多くの有益な機能「水質保護や改善、水濾過」により、魚やその他の野生生物に生息空間を提供し、出水の制御、生物生産の場、ガン類やカモ類といった水鳥に代表される渡り鳥にとって重要な休息場所、新熱帯区からの渡り鳥にとって重要な営巣環境、そしてそれらの野生生物と共存することによる私たちの癒しの空間を提供してくれています。

ダイニク USA は、1997 年以降この活動に継続して参加しています。



# 2024年度 海外グループ会社の活動状況

## DYNIC(HK)LTD.

1979年に設立されたダイニック・ホンコンは、ダイニック・グループ商品の香港・東南アジア、特に中国への輸出と、これらの地域からの原材料の輸入、市場情報の収集を行っています。

### 環境指数の実績

| 項目  | CO <sub>2</sub> 排出量(t) |
|-----|------------------------|
| 実績  | 2                      |
| 前年比 | 98.6%                  |



## DYNIC(UK)LTD.

1989年、英国・ウェールズに設立。サーマルトランスファーリボン・ケアラベルを加工・販売、ヨーロッパ・アフリカに輸出しています。

### 環境指数の実績

| 項目  | CO <sub>2</sub> 排出量(t) | 水資源投入量(千t) | 総廃棄物量(t) | 最終処分量(t) |
|-----|------------------------|------------|----------|----------|
| 実績  | 47                     | 0.3        | 74       | 55       |
| 前年比 | 109.2%                 | 110.9%     | 92.2%    | 91.2%    |



## 大連大尼克辦公設備有限公司

1991年、中国・大連に設立。インクリボン・カセットおよび文具関連製品の組立・販売を行っています。

### 環境指数の実績

| 項目  | CO <sub>2</sub> 排出量(t) | 水資源投入量(千t) | 総廃棄物量(t) | 最終処分量(t) |
|-----|------------------------|------------|----------|----------|
| 実績  | 607                    | 1.3        | 14       | 12       |
| 前年比 | 77.9%                  | 46.5%      | 81.7%    | 74.9%    |



## 達妮克國際貿易(上海)有限公司

2002年11月、中国・上海に設立。中国生産の既存製品であるコンピュータ用インクリボン、衣料用接着芯地に加えて、車輛用内装材・フィルタおよび家電用資材を中心に、中国国内をはじめ、日本、東南アジア市場に販売します。



# 2024年度 海外グループ会社の活動状況

## PT.DYNIC TEXTILE PRESTIGE

2014年、インドネシア共和国に設立。自動車資材関連を中心とする不織布材料の製造・販売を行っています。

### 環境指数の実績

| 項目  | CO <sub>2</sub> 排出量(t) | 水資源投入量<br>(千 t) | 総廃棄物量(t) | 最終処分量(t) |
|-----|------------------------|-----------------|----------|----------|
| 実績  | 903                    | 1.7             | 59       | 3        |
| 前年比 | 84.1%                  | 105.5%          | 60.6%    | 10.8%    |



## DYNIC(CZ)LTD.

2018年、欧州大陸の拠点としてチェコ共和国にDYNIC (CZ) s.r.o.を設立。DYNIC (UK) LTD.と連携してサーマルトランスファーリボンを欧州大陸を中心に加工、販売しています。

### 環境指数の実績

| 項目  | CO <sub>2</sub> 排出量(t) | 水資源投入量<br>(千 t) | 総廃棄物量(t) | 最終処分量(t) |
|-----|------------------------|-----------------|----------|----------|
| 実績  | 21                     | 0.1             | 82       | 34       |
| 前年比 | 93.8%                  | 116.0%          | 100.0%   | 100.0%   |



## DYNIC SINGAPORE PTE. LTD.

シンガポールに新たに販売拠点として海外子会社のDYNIC SINGAPORE PTE. LTD.を設立し、2020年10月1日より事業を開始しました。サーマルトランスファーリボンやケアラベルなどを中心にアセアン地域へ販売しています。

### 環境指数の実績

| 項目  | CO <sub>2</sub> 排出量(t) |
|-----|------------------------|
| 実績  | 1                      |
| 前年比 | 88.7%                  |

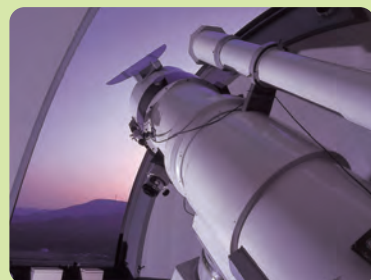


# 2024年度 天究館の活動状況

## アストロパーク天究館

ダイニックアストロパーク天究館は、口径60cmの反射望遠鏡と各種観望機器を備えた民間企業初の公開天文台です。

創業以来、ブッククロスを通じて文化・教育の分野に深く係ってきたダイニックが社会貢献と文化活動の理想として1987年に開設しました。



### 紫金山・アトラス彗星特別観望会

#### ●10年に一度のスケールの彗星 紫金山・アトラス彗星特別観望会

10年に一度の大きな彗星と話題の紫金山・アトラス彗星の特別観望会を企画しました。彗星方向に山があり、明るい時間帯から見えることから、近隣住民の方々等100人以上にお越しただけました。彗星は特に予測が難しい天体であり、見られない場合もあります。当日は尾を伸ばした姿を見ることができませんでしたが、大きな望遠鏡で彗星の中心部を見てお楽しみいただけました。



▲観望会の様子

△10月20日に天究館で撮影された  
紫金山・アトラス彗星

### 60cm 望遠鏡再整備

#### ●蘇った星の輝き

1987年に建造されて38年目となった天文台では、3回目の大きな整備を行いました。大きな改良として、反射望遠鏡の命でもある光を集める鏡の再メッキを行いました。反射望遠鏡の凹面鏡のメッキ寿命は約10年とされています。反射率が7割程度まで落ちていましたが、再メッキにより9割以上の光を集められるまでになり、惑星の模様もすっきりと見られるようになりました。また同時に小型望遠鏡を取り付けて、ピンポイント自動導入も可能に改良しています。

再メッキ後  
最初に撮影した  
「わし星雲の暗黒部」▶



◀再メッキされた  
60cm反射望遠鏡主鏡

### 天体観望会

#### ●デジタルプラネタリウム

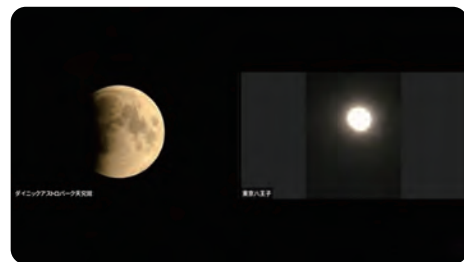
当社創立100周年を機に導入した本格的なデジタルプラネタリウムは5年経過しており、コントロール部分を8月に全面更新しました。新たな手法によりさらに綺麗な星空が映し出され、投影内容もグレードアップされており、引き続き大好評となっています。



▲全星座絵投影（動画も滑らかに動きます）

天究館では毎週土曜日に開催する定例天体観望会のほか、天体イベント（皆既月食や流星群など）に応じて開く「随時天体観望会」などを開催しています。

2022年には、皆既月食中に、天王星が月に隠れる天王星食も見られる大変珍しい現象があり、これまでに構築したリモート天文台観測システムを活用し、新たな試みとして、インターネットを利用したライブ中継も行いました。



プラネタリウムや天文台の望遠鏡を使用し、専門スタッフが案内する定例天体観望会を開催しています。

定例天体観望会

毎週土曜日 19:30 ~ 21:30

<観望料>

小中学生：100円

高校生以上：200円



## 『環境報告書2025』

発行：ダイニツク株式会社 環境推進室

発行日：2025年8月18日

